



西徳寺だより

9月号
Vol.156

「迷いおさめ」

西徳寺住職 篠田尊徳

コロナ禍でお手伝いを確保することが困難となり、始めた本堂での合同お盆参り。墓地・納骨堂参りの方も多いため駐車場の大混雑の問題が出てきておりますが(来年から合同お盆参りに来られる方は本堂前に駐車されてかまいません)、皆さまのご理解とご協力をいただいで徐々に定着してきております。

始めた初年はこんな電話のやりとりがありました。



Aさん「うちの盆参りはいつ来てくれるの?」

坊守「今年から戸別のお参りでなく本堂での合同参りにさせていただきます。戸別のお参りを希望される方はご連絡下さいとお知らせしておりますが、もう締め切りを過ぎておりますので、お寺からのお便りで事前にお伝えしておりましたが・・・」

Aさん「そんなの読んでないよ。で、いつ来てくれるの?」

・・・結局、予定をやり繰りしてお参りさせていただきました。新しいことを始める時は色々あります。

ところで坊守からこんな電話をいただいたよという報告があった時、私の頭にお経の「ある件」がよぎりました。

令和六(二〇二四)年九月発行 編集発行 篠田尊徳
〒八二二〇〇三四 福岡県直方市山部五四〇
浄土真宗本願寺派 覺音山 西徳寺
TEL 〇九四九二二〇六三六 HP <https://saitokujj.net>
FAX 〇九四九二二〇六六七 MAIL saitoku@oce.ocn.ne.jp



西徳寺ホームページ
QRコード
スマートフォン
パソコン

皆さんいつもお参りする『正信偈』にある「法蔵菩薩因位時在世自在王仏所」、これは「阿弥陀仏が法蔵菩薩と名乗っていた修行時代、世自在王仏という師仏のもとで」という意味なのですが、この元となった『仏説無量寿経』には世自在王仏はこの世に現れた五十四番目の仏様で、それ以前に錠光如来という仏様以来、五十三の仏方が次々この世にお出ましになり数限りない人々を教え導いて、その全ての者にさとりを得させ、やがて世を去られたと書かれています。「五十三仏」と呼ばれるこの件が私の頭によぎった所なのですが、私は長い間この「五十三仏」が一体何のために書かれているのか理解出来ませんでした。さとりにには師仏が必要だと言いたいのなら、世自在王仏の記述だけで十分ではないかと。

ある先生から「他人事として読んでいるから理解できないのですよ。あなたは錠光如来の御前にいたのです。周りの方が一人、また一人とさとりを得る中であなたはさとりを得ることなく、いやそれを求めることすら知らず、五十三仏がお出ましになりお隠れになる長い長い間迷い続けて今ここにいと書かれている大切などころです。」と聞かされて初めて意味が分かりました。

私には自分も知らないはるか昔から仏様の喚び声が届いていたのでしよう。しかし私は「そんなの読んでないよ。そんなの聞いてないよ」とその喚び声に耳を傾けることなく、迷い続け、流転の時を経てようやくこの度の人間としての境界をいただいた。それだけに留まらずこの度の境界では更に不思議な縁が重なって「南無阿彌陀仏」という阿彌陀仏の喚び声と、そのお謂れを聞くことが出来ました。『語り継がれる真宗民語 門徒ことば』(二〇一七年法蔵館)という本に、浄土真宗の門徒には「迷いおさめ」という言葉が語り継がれているとありますが、「南無阿彌陀仏」という喚び声は、阿彌陀仏の「すべてのいのちを撰めとって捨てない」という大悲心が「声」と成就したものですので、無始以来流転を重ねて来たこの私も、この喚び声を聞き入れた今生のいのちを以て「迷いおさめ」であるとしみじみ味わう事が出来ます。

お盆前の電話で言われた、「そんなの読んでないよ」との言葉と、それをきっかけに考えさせていただく「五十三仏」と「迷いおさめ」。喚び声を拒み続け背を向け続けたこの私を諦めることなく喚び続け、照らし続けて下さった阿彌陀仏に唯々ご恩報尽のお念仏を申すばかりです。

『正信偈』にある「大悲無倦常照我(阿彌陀仏の大慈悲は、あきることなく常に私を照らして下さる)」の一節が、ことに染みるお盆前のやり取りとなりました。

合掌

秋季彼岸法要のご案内

「やうやくに 彼岸花咲き 秋となる」 小浦榮子

左記の日程で秋季彼岸法要をお勤めいたします。

今年の暑さは今までに経験したことのない正に酷暑でした。おそらく法要時期もまだ残暑の厳しい中と予想されますが、西徳寺本堂は門信徒皆様のご理解によりクーラーを設置させていただいておりますので、安心してお参り下さいませ。この度のお彼岸が大切な方をお浄土に送られて初めてお迎えになる「初彼岸」という方もおられます。「初彼岸」の皆様も、その方が遺してくださったご縁としてどうぞお参り下さい。

・日時 九月 十二日(木) 昼座

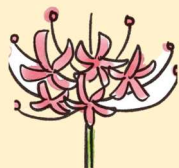
十三日(金) 朝座・昼座

十四日(土) 朝座・昼座

※朝座 午前十時 より正午 まて

昼座 午後一時三十分より三時三十分まで

・講師 直方市植木 願照寺 柴田 弘司師



秋季彼岸のお参りについて

昨年のお盆から正式に戸別のお盆参りを中止して、本堂での合同参拝という形で勤めさせて頂いておりますが、秋のお彼岸参りは例年通り戸別にお参りさせて頂きませう。

ただし、未だ新型コロナウイルス感染の懸念が全く無い訳ではありませんので、例年お参りさせて頂いているお宅で、この度はお休みしたいという方は遠慮なくご連絡下さい。
また、お盆の戸別参りが無かったため、お彼岸は戸別のお参りを希望される方もご連絡下さい。



秋季彼岸前後の納骨堂のお掃除について

秋季彼岸前後の納骨堂掃除、片付けを左記の日程で行います。残暑厳しい中での作業になると思いますので、くれぐれも体調に気を付けてお手伝いの程よろしくお願い致します。

作業時間は一時間程です。

○お彼岸前の清掃

光明殿・清浄殿・智慧殿ともに九月十七日(火)十時より

○お彼岸後の片付け(お供え物は事前に下げておきます。)

光明殿・清浄殿・智慧殿ともに九月二十八日(火)十時より



「秋の念仏奉仕」お願い致します

念仏奉仕とは西徳寺境内地の美化作業で、春・秋の年二回お願いしております。

掃除道具はお寺で準備しますが、使い慣れた道具や草刈り機などお持ちの方はご持参頂きますと助かります。

なお、近年お手伝いの人数が減少傾向のため、昼食はお弁当を取りますので、今まで昼食を担当して下さいだった婦人会の皆さんも清掃のお手伝いに回して下さい。

どうぞ、ご協力の程よろしくお願いいたします。

・日時 十月二十四日(木) 午前九時より 正午まで

※雨の場合は二十五日(金)に延期となります。



「第十三回子ども夏祭り」のお礼

七月十五日(海の日)に開催しました子ども夏祭りには、五十七名のお子さんが参加してくれました。朝から曇天で雨の心配がありましたが、それでもたくさんの子どもたちと一緒に「お参り」や「仏さまのおはなし」、そして「テバツタマジックショー」に「スイカ割」、「お菓子釣り」をして楽しい時間を過ごさせていただきました。お手伝いいただいた壮年会・婦人会の皆さん、保護者の皆さんも暑い中大変お世話になりました。



「初参式」のご案内「願われていのち尊しほとけの子」

「初参式」とは、赤ちゃんが仏の子として育ち、これからの人生を仏さまのお慈悲に包まれて生きていけるよう、人生の出発にあたり、その誕生を仏さまにご報告する式です。

また初参式は、子にとってはじめての仏縁ですが、同時に親にとつても、親として生きる出発点であり、子によつていただいた尊い仏縁でもあります。

生後三か月ごろから三歳ぐらいまでの「新しいいのち」を恵まれた親御様、この御縁にどうぞご家族で西徳寺に足を運ばれて下さい。

なお、この初参式は毎年行う予定にしておりますので、今回参加出来ない方も来年以降お待ちしております。

○日 時 十一月十六日(土) 午後一時より二十分程度

○行事内容 読経・お祝いの法話・写真撮影など

○会場 西徳寺本堂

○参加対象 生後三か月ごろ～三歳ぐらい

○申込方法 西徳寺まで電話で連絡下さい(09491210636)

○申込締切 十一月十日(日)

○参加費 五百円

○服装 普段着でかまいません

(お子様の念珠と門徒式章はお寺で準備いたします。)



絵手紙教室のご案内

「ヘタでいい、ヘタがいい」が合言葉。

皆さんのご参加をお待ちしております。

・講師 直方市感田 油布 紀美子先生

・場所 西徳寺門信徒会館

・会費 五〇〇円を参加した時だけ

・第二百七〇回 九月 二七日(金)

・第二百七一回 十月 二五日(金)

・第二百七十二回 十一月 二二日(金)

午後一時三〇分より

三時三〇分まで



納骨堂「光明殿」天井・厨子の照明工事完了のお知らせ

今年の光明殿総会にて了承されました光明殿天井と各お厨子の照明工事が完了しております。お彼岸参りの際に、ご確認いただきましたら幸いです。工事を担当していただいた「はせがわ美術工芸」の皆さんには暑い中、本当にありがとうございました

おわりに

この時期、納骨堂に生もののお供えをされたり、飲み物の蓋を開けてお供えされますと暑さですぐ傷んでしまい、片付けの際には物凄い悪臭をはなっております。生もののお供えはどうぞお持ち帰りいただき、ご家庭で「おさがり」としてお召し上がりをお願いします。